

分担研究報告書

若年がん患者の心理社会的状況調査

湯村 寧

横浜市立大学附属市民総合医療センター 生殖医療センター 准教授

研究要旨

若年がんに対する集学的治療や診断方法が進歩した結果、治療成績は向上し、がん患者の生存率は著しく改善しており心理社会的支援も含めたサバイバーシップ向上に資するサポート体制の構築が急務となっている。ただがんに罹患した男性患者の心理・社会的調査に関しては研究データに乏しく不明な点が多い。本研究は若年成人男性がん患者の心理社会的状況は、1) 健康な同年代の男性と異なるか、2) 妊孕性温存目的で精子凍結をした人と精子凍結をしなかったがん患者と異なるか、の2点を明らかにする。

A. 研究目的

若年がんに対する集学的治療や診断方法が進歩した結果、治療成績は向上し、がん患者の生存率は著しく改善してきている。これに伴い治療後のQOLの向上が重視され、妊孕性温存への取り組みが世界的に行われている。米国臨床腫瘍学会の勧告においても、がん治療による不妊のリスクに関して情報提供し、妊孕性温存を希望し適応を有する患者に対して生殖医療専門医を紹介すべきであると推奨している。日本でも2017年にガイドラインが発表され、心理社会的支援も含めたサバイバーシップ向上に資するサポート体制の構築が急務となっている。これに鑑み我が国では、若年乳がん女性患者を対象とした心理的介入が有効であるとの世界初の報告がなされている。ところが女性患者と比較すると、若年男性がん患者の妊孕性温存に関する研究は極めて少ない。

さらに、男性がん患者がこのような不安を抱えていたとしても、社会化の過程で感情について話す練習をほとんどしてこない

ため、一種の失感情症に陥っていると指摘する研究もある。加えて男性は、何かしらの心理的な支援を求めることに対して、自分あるいは他者が否定的な偏見を持つのではないかと恐れている。男性がん患者がどのような心理社会的な困りごとを経験し、それに対してどのような心理支援ニーズが存在するかを明らかにすることは喫緊の課題であるが、上述のような理由もあり、そのほとんどがわかっていない。

そこで本研究は、若年成人未婚男性がん患者における精子凍結後の精神状態および心理社会的な支援ニーズを明らかにすることを目的とする。具体的には、精子凍結保存後の自記式アンケートおよびインタビューによる観察研究を行い、①精子凍結保存を行った若年成人未婚男性がん患者の精神的健康状態、②そのような健康状態に影響を与える要因、③精子凍結保存を行った若年成人未婚男性がん患者の心理社会的ニーズについて検討する。

上述したように、精子凍結保存を行った

若年成人未婚男性がん患者がいかなる不安を抱え、どのような心理社会的サポートを必要としているかはまったく明らかにされていない。精神的健康を改善し QOL を向上させ、挙児を希望する患者の自己決定という尊厳を守るため、本研究の実施は非常に重要であると考え。さらに、本研究を予備的研究と位置づけ、効果のある心理的介入を確立するための研究に資するものとなることを目指す。

本研究は若年成人男性がん患者の心理社会的状況は、1) 健康な同年代の男性と異なるか、2) 妊孕性温存目的で精子凍結をした人と精子凍結をしなかったがん患者と異なるか、の2点を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

(1) 選択基準

暴露群として、調査時点から10年前までに精巣腫瘍・造血器腫瘍・骨軟部腫瘍のいずれかと診断され抗がん剤を使用した、現在20-49歳の男性患者。うち、妊孕性温存目的で精子凍結した方100人、精子凍結しなかった方100人。また、非暴露群として、これまでがんと診断されたことがない健康な、かつ現在20-49歳の男性300人とし、暴露群と年齢をマッチングさせる。

(2) 除外基準

自力で自記式アンケート、web調査の質問項目が理解できない、日本語で回答できない場合は除外

(1) 研究のアウトライン

【暴露群】研究対象者の外来受診日に研究者から本調査への募集案内を口頭及び説明同意書にて説明し、参加同意が得られたら、精子凍結の有無をたずね、該当するアンケートを配布し、患者自身で記入しても

らい、その場で回収する。アンケートへの回答を以って同意とみなし、アンケートは無記名で実施される。回収されたアンケートは非連結匿名化データである。

【非暴露群】本試験では複数社の相見積もりと委託業務内容との兼ね合いから楽天リサーチ株式会社を選定した。責任者は楽天リサーチ株式会社第三事業部上原惇であり、社が所有するパネルから研究対象者を抽出し、web調査を実施し、匿名の電子データを作成することを請け負う。

自記式アンケートの項目は、下記のとおりである。

【暴露群で精子凍結した者】(資料2参照) がん診断時のがんの状態(罹患時年齢、がん種)、がん治療内容、精子凍結の有無、精子凍結の意思決定プロセス(情報収集、共有意思決定尺度日本語版、決定葛藤尺度日本語版、決定後悔尺度日本語版)、現在の心理状態(HADS; Hospital Anxiety and Depression Scale 病院不安・うつ尺度日本語版、IES-R-J; Impact of Event Scale-Revised 改訂出来事インパクト尺度日本語版、男性のQOL尺度)、将来的な心配事、がん治療中・治療後の援助の状況とニーズ、属性(年齢、職業、学歴、同居家族、婚姻・パートナーの有無)、施設番号。

【暴露群で精子凍結しなかった者】(資料3参照) がん診断時のがんの状態(罹患時年齢、がん種)、がん治療内容、精子凍結の有無、現在の心理状態(HADS; Hospital Anxiety and Depression Scale 病院不安・うつ尺度日本語版、IES-R-J; Impact of Event Scale-Revised 改訂出来事インパクト尺度日本語版、男性のQOL尺度)、将来的な心配事、がん治療中・治療後の援助の状況とニーズ、属性(年齢、職業、学歴、同居家族、婚姻・パートナーの有無)、施設番号。

【非暴露群】（資料5参照）現在の心理状態（HADS ; Hospital Anxiety and Depression Scale 病院不安・うつ尺度日本語版、IES-R-J ; Impact of Event Scale-Revised 改訂出来事インパクト尺度日本語版、男性のQOL尺度）、将来的な心配事、属性（年齢、職業、学歴、同居家族、婚姻・パートナーの有無）。

調査データの分析は目的に従って、暴露群と非暴露群で現在の心理状態、男性QOLの差、精子凍結した者と凍結しなかった者で現在の心理状態、男性QOLの差を比較することが中心となる。その際、属性、精子凍結時の意思決定プロセスの違いが上記に影響するかどうかにも検討する。

実施施設：独協医科大学越谷病院泌尿器科、筑波大学附属病院（筑波学園病院泌尿器科）、横浜市立大学附属市民総合医療センター生殖医療センター泌尿器科、聖マリアンナ医科大学病院、岡山大学血液腫瘍内科、自治医科大学附属病院血液科、自治医科大学さいたま医療センター血液科、弘前大学医学部附属病院泌尿器科、東海大学附属病院泌尿器科

C. 研究結果

以上の観察研究アンケートを分担研究者の小泉とともに作成し参加施設に配布した。当科を受診し、同意を得た対象患者へ今年度調査を行った。当科は31名の回答を得ている。

D. 考察

E. 結論

データに関しては現在集計・分析中。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

とくになし
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

2. 学会発表

とくになし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

とくになし

2. 実用新案

とくになし

3. その他

とくになし